



No. 25
平成25年9月6日
発行
多治見市教育研究所
URL: <http://school.city.tajimi.lg.jp/kyoiku/>

本紙は多治見市教育研究所のホームページ上でもご覧いただけます。



「釣り堀の釣り」から
「大海原の釣り」に

多治見市教育委員会

教育推進課長

丸山 近

小さな子どもが、「あれは何？これ何？」と父親や母親にしつこく聞いたりする時期があります。ひらがなを覚えた頃には、車から見える看板を一生懸命読んだりする姿を見ておられる方も多いと思います。本来子どもは、興味関心のある事は知りたいし、わかりたいという欲求を持っています。しかし、子どものその純粋な気持ちは、大人の対応によっては、残念ながら無くなっていってしまうこともあります。親にしつこく質問すると、「お父さん忙しいから、お母さんに聞きなさい」「お母さん今手が離せないから後にしなさい」など、子どもの知りたい、分かりたいという純粋な気持ちが受け入れられないと、親には聞かなくなるだけでなく、学ぶ意欲を無くしてしまいます。子どもが親に聞いてきた時こそチャンスで、十分に子どもと関わって、学ぶ事の楽しさを伝えることが大切です。

私たち子どもに関わる大人が、子どもの学ぶ意欲を引き出し、学ぶ意欲を大切にしたい指導を心がけていきたいものです。

さて、今から15年ほど前に、社会教育主事講習に参加させていただいた事があります。その時に、ある大学の先生からこんな話がありました。

「学校の先生は釣り堀の釣り、社会教育は大海原の釣り」という話です。

「学校の先生は、教室に行けば子どもがいて、評価や試験があるから、子どもは楽しくなくても我慢して授業を受けている。これは、そこに行けば魚がいて、餌が悪くても、針が多少大きくても、それを食べる魚がいて、ある

程度の収穫があるのでそれで満足している。まさに、釣り堀の釣りである。

その餌や、その針では食いつけない魚がいることなど考えなくてもいい。その点、地域で開く講座などは、おもしろくなかったら二度と来てもらえない。だから、「何を釣るのか」「天候はどんな時がいいのか」「時間帯はいつがいいのか」「どんな餌を用意するのか」「糸の太さは」「針の大きさは」「竿の太さは」、こういったことを緻密に検討してかからないと命取りになる。大海原の釣りである。

社会教育は、対象を誰にするのか、その人たちに参加してもらうためには、いつの時間帯がいいのか、その人たちはどんなことに興味を持っているのか、どういった会場で行えばいいのか、宣伝の方法をどうしたらいいのか、こういった事を的確に判断しないといけない。しかも、まず開場に来てもらわないと、楽しさも伝えようがない。」ということでした。

私たちは、子ども一人一人に即した授業をしなくてはなりません。そのために、毎時間の課題に対して、子どもがどんな反応をするのかをイメージし、その反応にどんな手立てを講じていくかを具体的にイメージしていくことが大切です。その時、一人一人の子どもを理解していないとなかなかイメージとして持つことができません。児童生徒理解に基づいた、一人一人に目を向けた授業を実践していきたいものです。

ぬくもりのある学級をつくる児童の育成～質の高い自尊感情の育成を通して～

多治見市立養正小学校

1. 主題設定の理由

(1) 活動の様子から見た児童の実態

○仲間に呼び掛けるとともに、それに応えようとするができる。

●問題点を見つかったり改善しようとしたりする力が弱い。

(2) 「自尊感情」から見た児童の実態

「自尊感情」は、self-esteem(心理学用語)から訳された言葉で「自己肯定感」とも訳されています。本校では、【「自尊感情」：自分のできること、また出来ないことを含めて自分をかけがえのない存在として捉える気持ち。

「自己肯定感」：自分の良さを肯定的に認める気持ち】と定義しています。

自尊感情調査から個々の児童の自尊感情の傾向を把握しています。平成24年度調査の自尊感情調査では、多治見市版自信力調査を使用しました。1、6年生については多治見市の平均を下回りましたが、2～5年生については、同じぐらいかやや上回りました。

(3) 自尊感情の育成と学級経営

自分の役割や存在に確信をもち、主体性や社会性を発揮できる児童を育てることが本校の教育課題です。こうしたことを踏まえ平成23年度より学校教育課題を「主体性と社会性の基盤となる自尊感情の育成」とし、年2回の「自尊感情調査」をもとに一人一人の児童の自尊感情の実態を明らかにし、学校教育全体で取り組んできました。

平成24年度からは、自尊感情の育成にあたって児童と教師、児童相互の関係性が大きなポイントとなることから特に学級経営に焦点を当て取り組んでいます。

(4) ぬくもりのある学級とは

自尊感情の育成と学級経営の充実は相互に影響し合っています。こうしたことを基盤としながら、「ぬくもりのある学級」を「集団の中で自分を感じ、他の児童を感じる事が出来る学級」と位置付け、自尊感情を育むことが出来る学級として捉えています。

学級では児童相互にその良さに気付かせ、

仲間の良さを述べたり改善点を話し合ったりする活動を通して信頼関係を築くことで自尊感情を育てるとともに、自治能力や社会性を身に付けさせたいと考えています。

2. 研究仮説

学級活動を通して自治的な集団を目指した個への指導を行えば、自尊感情や仲間への信頼が高まり、ぬくもりのある学級をつくる児童を育成することができる。

3. 研究内容

【研究内容①】指導計画の工夫

(1) 発達段階に応じた「中心となる活動や主な行事」の設定

低学年 自分や仲間の良さに気づく活動

中学年 仲間と協力して活動し、お互いの良さを認め合う活動

高学年 学校や学年のために力を発揮し喜びを感じる活動

(2) 意識の変容と手立てを明記した学級経営案や題材指導計画の作成

- ・学級目標達成に向けた意識の変容を予想して記す。
- ・学級経営案と題材指導計画、教室掲示との整合性を確認する。

【研究内容②】話し合い活動の工夫

(1) 必然性のある議題の設定

- ・児童が話し合いたい解決したいと願う困り感や意識のずれのある議題を設定する。

(2) 学級目標を達成しようとする意識を高め、お互いの気持ちに共感する話し合いにするための手立て

- ・事前に、議題に対する意識調査を行う。
- ・話し合いの進め方を司会者と事前に打ち合わせる。

(3) 教師の出場

- ・自尊感情アンケートの結果を意識した助言をし、学級目標に照らして価値の高い意見を価値付ける。

生徒が主体となって学ぶ授業の創造 ～根拠をもって思考・判断し、表現できる生徒をめざして～
多治見市立南ヶ丘中学校

1 主題設定の理由

本校は、昨年度より多治見市教育課題研究指定校として、研究を進めてきました。

多治見市の教育課題は「一人一人が自己充実感をもつ学習指導」です。一人一人が「できるようになった。わかった。」という実感もてるような授業を工夫し、実践を積み重ねていくことが大切であると考えました。

本校の生徒は、学習規律を守り、落ち着いて授業に臨むことができます。また、課題に対して自分なりの根拠を明らかにしつつ、自分の考えをもつこともできています。反面、身につけたことを積極的に活用し、表現していかうとするところに苦手意識を持っている生徒が多くいると感じています。

そこで、主体的に生徒が取り組めるような授業や活動の工夫をすることで、できるようになったという実感ももち、根拠をもって自己の考えを表現できるようにしたいと考えました。本校では、そんな生徒の姿を求めて、主題を設定しました。

2 願う生徒の姿

研究主題と生徒の実態から、めざす生徒の姿を次のようにイメージしました。

- (1) 基礎的・基本的な学習事項の定着に努め、仲間とともに課題解決する生徒
- (2) 既習事項の習得を積み重ね、それを足場として様々な場面で活用する生徒
- (3) 自分の考えに対する根拠をもって、思考・判断したことを表現する生徒

3 研究仮説

基礎的・基本的な学習事項を習得・活用させ、学習集団と学習環境の向上の工夫を行い、さらに教師自身の指導力を高める取組を行えば、主体的に学び、根拠をもって思考・判断したことを表現する生徒を育てることができる。

「授業改善」「学習集団と学習環境の向上」「教師の指導力向上」という3点を研究内容とし、実践を進めています。

4 研究内容

研究仮説を受け、(1)から(3)の研究内容を設定しました。特に(3)については、あえて研究内容にする必要はないのではという意見もありました。しかし、教師として自

らの指導力を見直し、さらに向上させていく必要があると考え、研究内容として位置付けることにしました。

(1) 学習活動の工夫

ア 基礎的・基本的な学習事項の定着・習得と活用を位置づけた指導過程の工夫

- ・ 生徒の実態把握と綿密な教材分析を行い、つきたい力を明確にして単元や本時を構成していきます。

イ 根拠をもって思考・判断し、表現するための指導の工夫

- ・ 生徒の意識の変化をイメージし、単元や本時を見通した「表現する場」を設定していきます。また、授業終末における生徒の意識も明確にイメージできるようにします。

(2) 主体的に学ぶ学習集団と学習環境の向上

- ・ 学級目標を達成するために、授業でめざす姿を設定し、期毎に学習目標の設定していきます。さらに「こだわりの授業」「最高の授業」の取組を通して、生徒の主体性を生かした授業を目指します。
- ・ 学習目標達成のための継続的な取組を行い、教科係が活躍できるような場を位置づけていきます。英語と数学における少人数指導を充実させていきます。

(3) 教師の指導力の向上(ユニバーサルデザインの授業づくり)

- ・ 教師の話す言葉を録音し、文字起こしをすることで、適切な教師の話し方を吟味していきます。
- ・ 本時のねらいを明確にし、活動内容で終わらない課題設定を工夫していきます。
- ・ 基礎的・基本的な学習事項の定着や思考判断の足場とするため、理解を深めるための板書計画を作成します。
- ・ 誰がどんな考えを持っているのか、また課題追究につながる意見の把握を行うために、机列表を活用していきます。

得意セミナー

得意セミナー(児童生徒向け)開講

今年度も夏休みに、児童生徒向けに得意セミナーを全14講座開講しました。ほとんどの講座で市内の先生が講師となり、これまで培ってきた優れた教育実践や得意分野をもとに講義をしていただきました。

紙面の関係上、行われた講座の中からいくつかの講座を紹介します。

○親子でサイエンス



小泉中学校で行われました。40名を超える参加者でした。2教室に分かれて、圧力・物質の状態変化・エネルギー変換や

光の屈折の実験を交代で行いました。みんなが楽しみながら実験をしていました。

○多治見再発見！～勾玉づくり・多治見文化財めぐり～

喜多緑地公園にて、滑石を切ったり削ったりして勾玉を作成する体験を行いました。その後、美濃焼ミュージアムに移動し、美濃焼の歴史について学びました。また西浦庭園や多治見国長居住跡を見学しました。「はじめて勾玉を作り昔の人たちのたいへんさがわかった。」や「多治見に住んでいてもなかなか知らない美濃焼のことが分かった。」などの感想がありました。



○跳び箱にチャレンジしよう！

跳び箱が苦手だけれどもできるようになりたい子どもたちが集まり、開脚跳びを練習をしました。腕で体を支える練習をするなど、コツを学びました。「学校ではできなかった5段が跳べたので嬉しかった。もっとやりたい。」などの喜びの声が多くありました。



○給食メニューをつくってみよう！

池田小学校の調理場をお借りして給食メニューと同じものをつくる体験をしました。まずは、清潔な身なりをして、手洗いの



仕方を学びました。それから、大きな釜としゃもじで焼きそばをつくる体験をしたり、餃子の皮包みをしたり、にんじんサラダ作りをしたりしました。「本当の調理員になったみたいだね。」や「こんな大変なのだから、給食を残さず食べよう。」という感想がありました。

○算数セミナー

算数が好きな子どもたちが集まりました。まずは、算数ビンゴをやり、難しい問題でもねばり強く解いていました。また、タングラムでは、少しの工夫でいろいろな形が作れることを体験しました。最後に、メビウスの輪のことを学びその不思議さに驚いていました。「学校で習っている算数がこんな面白いものだと思わなかった。」や「楽しかったので、家の人ともやりたい。」と楽しく学ぶ姿がありました。



この他に次のような講座を行いました。

- ・親子で体験 野焼き教室
- ・書道コンクールにチャレンジしよう
- ・夏の理科研究の始め方、進め方、まとめ方
- ・将棋講座(初級・中級)
- ・パソコンを使ってオリジナルカレンダーと名刺の作成
- ・ポスターを描いてコンクールに挑戦
- ・あれ？スラスラ書けたよ読書感想文
- ・読み聞かせからひとり読みへ

子どもたちは自分の興味関心のある講座に挑戦しました。普段はなかなかできないことを、体験を通して楽しく学ぶことができました。

第14回多治見市中学校連合生徒会

今回の連合生徒会は8月8日(木)に北陵中学校で行われました。

第1部の議題は「生徒の心を育てていくためのCP(キャンペーン)後の姿を意識した活動の工夫」で話し合いました。前回の連合生徒会において、CPをしたときには全校の姿が向上するが、CPが終わるとまた元の姿に戻ってしまい積み上がっていかないところに課題があることが確認されました。そこで、今回は各校の実践を交流し、CP後もCPで高まった姿が継続する方法を話し合いました。



各校の交流をした後の話し合いでは、次のような意見がでました。他学年と交流することで、互いに学び合う異学年とのつながりをつくるのがよいのではないかと。また、CPが終わったら終わるのではなく、常時活動化させると意識が継続するのではないかと。さらに、CPの課題を学級で話し合うなど、学級が主体で取り組むことが大切なのではないかと。

このように、他校の実践のよさを見つけることで、今後の自校の実践に生かせることを見いだしていました。

第2部は、議題「多治見市中学校宣言を振り返って」について話し合いました。各校の実態を話し合ったところ8校中7校が「出会った人に明るく笑顔であいさつ」があまりできていないという課題が残りました。これから、各校であいさつについて取り組むことが確認されました。次回の連合生徒会では「あいさつ」の取り組みについて話し合うことになりました。

今回の連合生徒会では、議長校の北陵中学校は、準備から片づけまで気持ちよく活動していました。また、司会進行の仕方をよく考えしっかりと準備を行っていました。そのため、多くの意見を取り上げることができ、まとめることもできました。また、各校の事前の準備がよくされており、自信ある発表が多く見られました。今後の活動につながる実りある連合生徒会になりました。



教師塾セミナー(教師向け)開講

今年も教員のスキルアップを目指した教師塾セミナーが開講されました。今年、全部で18講座開講されました。

【受講生の声】

○クラスづくりに役立つファシリテーションゲーム

楽しいゲームを通して気付きの多い内容で、すぐに学級でも使わせてもらいたいと思いました。子どもたちの自尊感情を高めることを自分のテーマにしています。ただ、ほめるだけ認めたりするだけでなく自分や友達のリーダーシップに気付くことでより自分の大切さが実感できるのではないかと感じました。

○通常学級における特別でない特別支援UD化を進めるための1・2・3

授業のUD化とは、すべての子にわかる授業をすることであることを学びました。そのための授業づくりの工夫がいくつも紹介されました。提示のスマールステップ化、違う角度からのアプローチ、道具を選ぶというアプローチなど。学級の児童の顔を思い浮かべながら、こんな工夫をしてみようと思えました。

○子どもの運動能力を高める動き

子どもにとって何が必要なのか、子どもの発達段階に合わせた遊びの工夫を学ぶことができました。幼稚園でも今日学んだ遊びといくつかの視点(前後、左右)をぜひ取り入れていこうと思います。

○「道徳の時間」の基本

道徳では、発問をどうしたらよいか迷ってしまいます。今回のセミナーで学んだ「共感的活用」という基本的な発問の仕方から実践してみようと思いました。また、展開の後段で十分な時間を確保するためには、導入でねらいとする価値につながる交流が短時間でできるように工夫したいと思いました。

○学校の授業で活かせる公共図書館の使い方

閉架見学、点字の絵本、ポプラディアを使った調べ学習などたいへん勉強になりました。特に学校への団体貸出の仕方が分かったのでぜひ学校で紹介し、活用したいと思いました。

○ムービーマーカーを活用した画像編集

今回初めてムービーマーカーを使ってみて、画像の編集が思っていたよりも簡単にできてしまうことを知って驚きました。学校の様子を編集して、保護者会で見せることで、子どもの様子を分かりやすく伝えたいと思います。



受講された先生方はみなさん熱心に取り組まれました。自分から質問をする先生や何度もやってみる先生もみえました。

第2回 市初任者研修 防災訓練研修

7月30日（火）に、第2回多治見市初任者研修を実施しました。

今回の研修のねらいは、多治見市の安全・防災についての取組を理解するとともに、訓練、視察を通して災害時に対応できる知識・技能を身に付けることでした。

当日は、昭和小学校を会場にお借りし、防災講話、防災倉庫資機材運営訓練、炊き出し訓練、DIG（災害図上訓練）を行いました。その後、バスで市内の災害箇所を視察しました。

防災講話では、市役所企画防災課の方から、近年の市内における災害状況を教えていただきました。平成22、23年度に多治見市で起こった豪雨災害では、大人の胸あたりまで浸水したことや道路が崩れたことを知りました。

また、東日本大震災や阪神・淡路大震災の被害や避難の様子、多治見市の施策についても教えていただきました。「災害（結果）は危険（誘因）が脆弱性（弱点）と出会うことで起こる」と言われているそうです。自然災害は起きるが被害につなげないことです。

そのために、教員として大切なことは、以下の2点だと教えていただきました。

- ①災害に対する正しい知識をもち、児童生徒を守るための能力を身に付ける
- ②身の危険を察知し、自らの命を守ることができる児童生徒を育てる

防災倉庫資機材運営訓練・炊き出し訓練では、南消防署や女性防火クラブの方にご協力いただきました。防災倉庫には、どんな資機材があるのかを確認した後

に、簡易トイレを設置しました。

炊き出し訓練では、炊飯袋（ハイゼックス）を使って、米を炊く方法を学びました。

このように、実際に体験することで、いざというときに行動することができるようになります。



午後からは、DIG（災害図上訓練）を行いました。DIGとは、地域で大きな災害が発生する事態を想定し、地図上に危険が予測される地帯や事態を書き込んでいく訓練です。こうして地域を知ることによって、災害に対する意識を高め、避難方法などの対応を考えることにつながります。

今回は、昭和小学校区を想定して行いました。初任者の先生方は、3つのグループに分かれ、地図上で、線路、川、狭い道路などを色分けして、地域の特徴や想定される災害を話し合いました。

講師の先生から与えられた課題に対して、

「この場所で大雨が降ったら…」

「避難場所に動くより

家で待った方が安全ではないか…」

「この道を通って避難すると、川が近くにある危険ではないか、こっちへ避難する方が安全ではないか…」と、みんなで意見を出し合っていました。

最後に、市内災害場所を視察しました。平和町では、約160cmも浸水した現場に立つことで、自然災害の恐ろしさを感じることができました。

企画防災課の方からは「災害で命をなくさないこと」を何回も言われました。そして「災害が起きても昨日と同じ生活ができる備えをすること」の大切さも言われました。

初任者の感想には「災害に対して正しい知識を持ち、判断力や行動力を身につけるということを教えてくださいました。まだ多治見に来て間もないから…といった理由でどんな地形なのか把握していませんでしたが、せめて自分の小学校区の地形の特徴はきちんと理解し、知識を持っておく必要があると感じました。」とありました。

『自分の命を自分で守る子』を育てるために、教師として何をすべきか一人一人が考える研修となりました。

初任者の先生の紹介

教師として歩みはじめて③

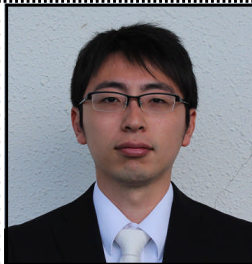


「全力でやりきる」

精華小学校 伊藤 瞳

教師として歩み出して4ヶ月が経ちました。何もかもが初めての経験ばかりで楽しい反面、多くの困難もありました。

毎日の授業準備、学級経営など、大変目まぐるしく、気がつくとうつりの会が終わっていたこともありまして。しかし、「ひとみ先生！」と元気よく声をかけてくれる子どもたちの姿、「わかった！」と目をきらきらさせて手を挙げる子どもたちの姿を見ると、私もうれしくなります。そして再び「子どもたちのために全力でがんばらなければ！」と思う事ができます。このように子どもたちに充電させてもらう毎日です。また、私がこうしていただけるのも、温かい目で見守ってくださる保護者の方々、指導をしてくださる先生方に支えられているからだと感じています。子どもたちに寄り添い、子どもたちと共に成長しながら、全力で何事にも取り組んでいけるように努力していきたいです。



「走り続けた4ヶ月」

笠原中学校 原田 和樹

小学生のときからの夢であった教師になって、4ヶ月が過ぎました。4月から教師として歩んできたというよりは、走り続けた4ヶ月でした。担任ということもあり、どうしてよいかわからず不安だったり、授業が思うようにいかなかったりと悔しい思いをたくさんしました。

しかし、そんな中、先輩の先生方が快く相談にのってくださり、たくさんのアドバイスをしてくださいました。また、学校にくると出会える生徒の笑顔にも支えられて、私も笑顔で元気に過ごせています。

私の教師としての道はまだまだ始まったばかりです。自分にできることを精一杯やりきり、支えてくださる周りの方に感謝しながら、毎日を笑顔で元気に過ごしていきたいです。

私一人の道はまだまだ始まったばかりです。自分にできることを精一杯やりきり、支えてくださる周りの方に感謝しながら、毎日を笑顔で元気に過ごしていきたいです。



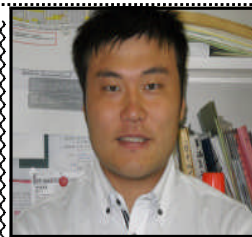
「充実した毎日」

滝呂小学校 佐藤 理恵

4月から教員としての生活をスタートさせ、あっという間に4ヶ月が経ったなと感じています。この間は何もかも初めての経験で、戸惑いや不安が多くありました。

しかし、子どもたちが静かに話を聞こうとする姿、元気よくあいさつをする姿、手を挙げて「先生あてて！」と言わんばかりのキラキラした目で私を見ている姿など、日々成長し頑張っている子どもたちの姿を見るたびに、戸惑いも不安も自然と笑顔に変わりました。充実した毎日を送ることができました。また、初任者の私に優しく親切に指導して下さる周りの先生方も支えられ、私自身多くのことを学んだ4ヶ月でもありました。

あっという間の4ヶ月でしたが、まだ始まったばかりです。これからも学ぶ姿勢を忘れることなく、日々努力し成長していきたいです。



「教師としての決意」

小泉中学校 原 博一

ずっとなりたいと思ってきた教師という職業に就くことができ、4ヶ月がたちました。2年生の担任として教壇に立たせていただき

ましたが、生徒の思いを理解することがなかなかできなかったり、授業がうまくいかなかったり、順調とは言えない日々もありました。そんな日々の中でも、自分の役割を懸命にやろうとする生徒の姿を見たり、真剣に語った思いを理解しようとして聞いてくれたりする生徒の姿に励まされ、これから頑張ろうと思うことができました。また、職場の先生方に温かい言葉や時には厳しい言葉をかけて頂き、自分のことを気にかけてくださっていることに感謝し、自分の力にしていかなければならないと感じています。4月から今までの自分のやり方をしっかり反省し、これから生徒に力をつけるために頑張っていきたいです。

初任者の先生の紹介

教師として歩みはじめて④



「全力でやりきる一年」
昭和小学校 加藤 哲也

昭和小学校に赴任して5ヶ月が過ぎました。子どもたちの生活を見ると、前より係の仕事ができるようになってい

なあ、友達と言われてうれしい声かけができてい

なあと成長を感じる場面がたくさんあります。授業を行う中でも「わかった！できた！」という成長を実感できる言葉を聞くと、とてもうれしい気持ちになります。

今は子どもたちとの授業以外での時間も大切にしています。休み時間には一緒にたくさん遊び、話をすることで「この子はこんなことが得意なんだ」などの発見があります。クラスでは「全力」という学級目標を掲げてがんばっています。子どもたちはもちろん自分自身も全力を注いでいき、一緒に成長していきたいです。



「子どもとともに」
養正小学校 山村 一翔

大学を卒業すると同時に教師としての生活が始まりました。初任者として、とにかく謙虚に自分から学ぶ姿勢を大切に

してきました。4月当初、何もわからなかった私が今まで頑張ってきたのも、校内の先生方や保護者の方々、そして何よりも、「先生」と呼んでくれる子どもたちのおかげです。本当にたくさんの人に支えられて私は先生をしているのだと改めて思いました。

教員になって半年、私が大切にしてきたことは子どもの前で正直でいることです。うれしいときはその思いを伝え、嫌な思いをしたときには素直に嫌だと気持ちを話しました。そうすることで、子どもたちとの信頼関係を少しずつ築けてこられたのではないかと考えています。私は今後も、子どもたちと素直に、正直に関わり、自分自身も子どもたちとともに成長し続けたいと思います。



「子どもと共に過ごした4カ月」
北栄小学校 佐伯 実穂

不安と期待な気持ちでスタートして4ヶ月が経ちました。先を見通すことができず、日々ひたすら突っ走ってきたように思います。そのような中で、楽しいことや嬉しいことがたくさんありました。朝

の元気いっぱいの「おはようございます。」や昼休みの「一緒にあそぼうよ。」帰りは、教室を出る前に立ち止まって「先生、さようなら。」など、いつも力いっぱいの子ども達と過ごすことができることに喜びを感じます。困っている友達に優しい言葉をかける姿や、誘い合って仲良く遊ぶ姿など、子ども同士の姿を見てあたたかい気持ちになります。

また、分からないことや困ったことがあると、親身になってアドバイスをくださる先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。そして様々な場面で先生方のようにになりたいと憧れをいだきます。感謝の気持ちを忘れず、私も子ども達と一緒に大きく成長する1年にしていきたいです。



「子どもたちから学ぶこと」
北栄小学校 種田 彩子

教師としてスタートをきって4ヶ月。本当にあっという間の4ヶ月でした。毎朝、教室に入ると聞こえる「おはようございます。」と「先生！」の声。同じ毎日の繰り返しのようですが、1日として

同じ日はなく、毎日が充実しています。その中で、子どもたちの表情や日々の姿も毎日変化し、そのきらりと光る姿を見つけられた時は、とても温かい気持ちになります。

ある教科に苦手意識があり、授業でいつも少し浮かぬ表情をしていた子。しかし、ある日の授業で、きらきらした目と明るい表情でこちらを見つめ、授業に臨んでいました。授業後、「なんか今日の2時間目はおれ、わかった。」と嬉しそうに言いながら、赤白帽子をつかみ、教室を出て行きました。とても嬉しい瞬間でした。これからたくさんの授業をしていく中で、子どもたちが“わかった！”という喜びを多く感じ、“僕、私ってすごい”と思えるような授業を目指していきたいです。